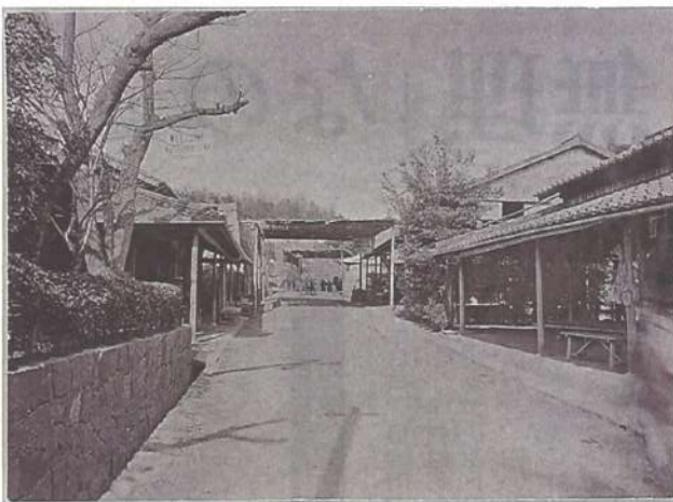


写真を見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一



## 田上峠の茶屋

□ 30 □

明治30年代、茂木新道田上峠の茶屋である。茂木村（現長崎市茂木町）は長崎市浜町の東南約8キロの場所にあった。長崎の裏玄関である港町の茂木へ行くに根を越える必要がある。茂木への要路田上峠は茂木口といわれ、この尾根の峠の場所が田上であり、途中の休息をひるために茶屋ができた。

左の木に掛けられた看板は「WELCOME MA TUBARA SHIMA TEA HOUSE」と読める。ここは松原シマが経営する松原茶屋である。英語の看板から外外国人旅行者が多かつたとがうかがえる。

松原茶屋の前には休息用のベンチが並べられ、足を洗うためか金盥と木桶が置かれている。屋内には、

道路の上に2カ所、木の柱に竹で編んだ屋根を載せたに変わった軒の檼は垂鉛メッキのトタンとなり、垂直の檼には竹がくりぬかれて使われている。田上の茶屋名物は蕎麦とタケノコ飯と青餅であった。

道路の奥には、完成したばかりの長崎方面からの切通しを抜けて峠に上がり始めた荷馬車が写っている。長崎県は明治18（1885）年に茂木古道を拡幅し、人

力車や荷馬車が通れる茂木新道の開削に着手した。明治20年に開通し、6月25日明したのは大正12（1923）年のこと。竹下写真館はこの写真を絵はがきにして売り出している。

## 外国人客でにぎわつた要衝

随時掲載します



長崎外国语大学ホームページにアクセスできるQRコード

ガラスのコップが並べられている。藁ぶきから、瓦ぶきに変わった軒の檼は垂鉛コが並ぶ。右の柱には草鞋（スリッパ）の企画の過去の記事、写真是長崎外国语大学のホームページ (<http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/recnas/>) で見

なみにゴム長靴は明治38（1905）年にアメリカから初めて輸入され、ゴム履物の国産化は明治41年（1908）に三田十護謨合資会社（後の昭和ゴム）による。久留米の石橋徳次郎が足袋の裏にゴムを張る地下足袋を発明したのは大正12（1923）年のこと。竹下写真館はこの写真を絵はがきにして売り出している。

（長崎外国语大学長）